



戦争法案を廃案に追い込むまで、発行します。(中野貞彦)

No.17 2015.9.19

☆重要な記事を集めて紹介し、短い感想、コメントを付します。出所の URL を明記します。

首相はどう考えているのですか？ 本当に守りたいものは何なんですか？ 私にとっては、平和は戦争・貧困・格差などの暴力のない世界のことです！ ～9/18、国会正門前集会での学生のスピーチ～

非常に心に響く内容です。ぜひ多くの人に読んでもらいたいと、石綿勇さんが文章に起こしたので、紹介します。ぜひ視聴してみてください (<https://www.youtube.com/watch?v=chGeGi9br7A>)。

彼女は夜の8時半頃にスピーチをしました。戦争法案が参院本会議で可決された19日午前2時過ぎでも正門前では抗議集会が続いており、彼女が再びうながされてスピーチしたのは、おそらく4時過ぎ頃だと思われます。録画されたのはこの時刻のもので、上記 URL の長さは11:15、彼女のスピーチは4:26あたりから始まり、10分ほどです。続いてその後に奥田愛基さんのスピーチがあり、そして彼が、『現代思想』に執筆をしたシールズ関西の大澤菜実さんを紹介し、脚立に上がって彼女もスピーチしました。そのスピーチも心に響きます。『現代思想』(2015年10月臨時増刊号)には、「SEALDsの周辺から 保守性のなかの革新性」(大澤菜実)、「勇気、あるいは賭けとして」(奥田愛基+猪瀬浩平(聞き手))などが載っています (<http://www.seidosha.co.jp/index.php?9784791713059>)。

みなさん、お疲れ様です。ここへ立って初めてまだこんなに人が一杯いることを知りました。このスピーチはさっき、夜、したんですけど、法案が通ると思ってない、そんな前に書いたスピーチで、でも私が言いたいことは、採決された後だって変わらないという意味を込めて、またこのスピーチをさせていただきます。(拍手)

私はこの夏、沢山の言葉に出会いました。偉いね、頑張れという応援や、励ましの言葉、「私も一緒に頑張る」という心強い言葉、「そんなことして何になる、馬鹿なことはやめろ」という叱責の言葉。誹謗中傷や無言で訴える中傷や・・・にも。ネット上では賛成派と反対派が互いの言葉尻を取って、挙げ足を取りあい、私は目を付けられないように必死になるばかりです。いつの間にかシンプルな言葉では、物を語れなくなりました。それは、だけど、当然かもしれません。この法案のことを、命や戦争のことを、そんな簡単な言葉で伝えられるはずがありません。顔を付き合わせずに話し合えるはずがありません。だけど発言するのは、いつだって責任が伴い、私にとっては怖いことです。だけどやっぱりどうしても政治に、政治家に言いたいことがあって、今日はここでマイクを持たせてもらっています。

私が言いたいことは、戦争が、武力が、犠牲の上の平和や幸福がいやだということです。(拍手)今の私があるのは、沢山の犠牲の上で経済成長してきた日本と、沢山の人の努力によって支えられてきた平和教育があるからです。だけど、だからこそ、あらゆる犠牲の上に生きる自分も繰り返し振り返り、このままではいけないと認め、考え、行動し続けていきたいんです。ましてや沖縄の人が犠牲になることも、自衛隊員やアメリカ人兵士が血を流すことも、仮想敵国の市民や兵士が敵と見なされ怪我を負うことも、何とかして変えられないか、考え、生きていきたいんです。(拍手)誰も傷つかない社会に変えられ、構築する平和に、少しでも近い姿を求めて、ここにこんなにもこうして人が集まっている。この事実こそが、これからの日本の安全保障の方向性を照らす希望そのものではないですか。(拍手)その可能性をあきらめずに続けてきた人がこれまでも、そして今も沢山





戦争法案 廃案ニュース



いることを私は知っています。そして、同じように私もそれをあきらめたくはありません。審議は尽くされたと言うけれど、この夏に聞いた政府の言葉は、その多くがごまかしの言葉に思えました。

(拍手) 後方支援、武力行使、そして戦争、平和と安全、国民の生命、自由、幸福追求の権利とは、いったいどういうもののことを指しているのでしょうか？「一般的にどう言われている」とか「海外では普通」だとか、そんなことを聞いているんじゃない。(そうだ。拍手) 平和主義を掲げる国の代表として、平和や戦争というものをどうとらえているのか？また、一個人としてどう生きていきたいのかを知りたいんです。(拍手) 首相にとっての戦争って何なんですか？平和って何なんですか？犠牲って何ですか？アメリカの選択はいつでも正しいものだったのでしょうか？(いや、違うよ) 日本のこれまでの戦争について、首相はどう考えているのか？仮想敵国の市民の命についてどう考えているのか？武器を、銃口を突きつけられるであろう人の命、そして突きつける側の人の心についてどう思っているのか、教えてください。言葉を尽くしてこの質問に答えてほしい。あなたたちの真意が分からないまま、この法案を通すわけにはいかないんです。私は、戦争は全てを壊す暴力行為だと思っています。どんな理由があろうとも、銃口を人に向けるという行為は正義なんかにはなり得ません。(拍手) その準備を日本は本当にしなくてはいけないのでしょうか？他に方法はないのでしょうか？法案が成立しアメリカに追従すれば、必ずどこかの国で血は流れ、日本人も被害者や加害者になるでしょう。人は傷つき痛みを感じます。それ以上に沢山の人が亡くなります。それが、日本に、もはや政治家自身や、その家族にさえ降りかからなければ、それでいいのでしょうか？それが政府にとっての平和なんのでしょうか？本当に守りたいものは何なんのでしょうか？私にとっては、平和は戦争・貧困・格差などの暴力のない世界のことで、人の生活を脅かして得る安全を私は平和とは呼びません。(大きな拍手) たとえこの考えが少数派であっても、少数派になっても、現実的でないと言われても、私は犠牲のない平和を求める努力を惜しみません。(よし、拍手)

目指すところから始めないと何も始まらないからです。だけど平和を作るのは大変です。国際支援の活動で、私は人ひとりを救うことがどれだけ大変か、どれだけの方が話し合い、協力し合い、成り立っているのか、を学びました。人の命を救うことは決して簡単じゃない。平和を築くには時間がかかる、そんなことは分かっている、だけど簡単にあきらめたくない。今の日本が出来る可能な限りの努力をしていきたい。ここにいる国民一人ひとりが考えて、政治家と共に行動すれば平和主義を貫ける、この可能性をどうか信じてほしい。(拍手)

国会議事堂の柔らかな、立派な椅子に座りながら見下ろす私たちの姿は、政治家に、政治家の目にどう写っているのでしょうか。こんなに国会前に通う日が来るとは私は思っても見なかった。政治家一人ひとりの決断で、発言で、私たち一人ひとりの日常は、こんなにも変化します。群衆ではありません。ここにいるのは、一人ひとりが人生を持つ人間なんです。(拍手) 守られたきれいで立派な空間で話し合われたことが、人に汗を流させ、時には傷つけることがあるということ、どうか、政治家には忘れないでほしい。また同時に私たちが求めさえすれば、生活も社会を良いものにしてもらえることがあるということ、私は忘れずにいます。そこから見下ろす景色にうぬぼれることなく、一人の人間として考え行動してほしい。

何度でも聞きます、この法案は何を守るためのものなんですか？言葉で言うのは簡単だけれど、武力行使、戦争、これは、自由や幸福、命というものの重みを想像し、しっかり受け止めてほしい。そしてどうか、これらが政府や首相にとってどんなものなのか、その答えがもしもあるなら、言葉を尽くして私たちに教えてください。対話の姿勢を見せてください。私たちは「戦争をしたくない」、この一点で、少なくとも国民はつながっているはず。誰も「死にたくない、殺されたくない、殺したくない」、その方法をもっと話し合いましょう。そのための時間と真摯な姿勢を政治家には求めたい。(拍手) 私利私欲におぼれない、怒りで我を忘れない、冷静な判断をしてほしい。私は主権者としていつまでも自ら主張し、行動し続けます。そしてこの夏の、この今日の出来事を決して忘れることはありません。ありがとうございました。(長い拍手) ■